

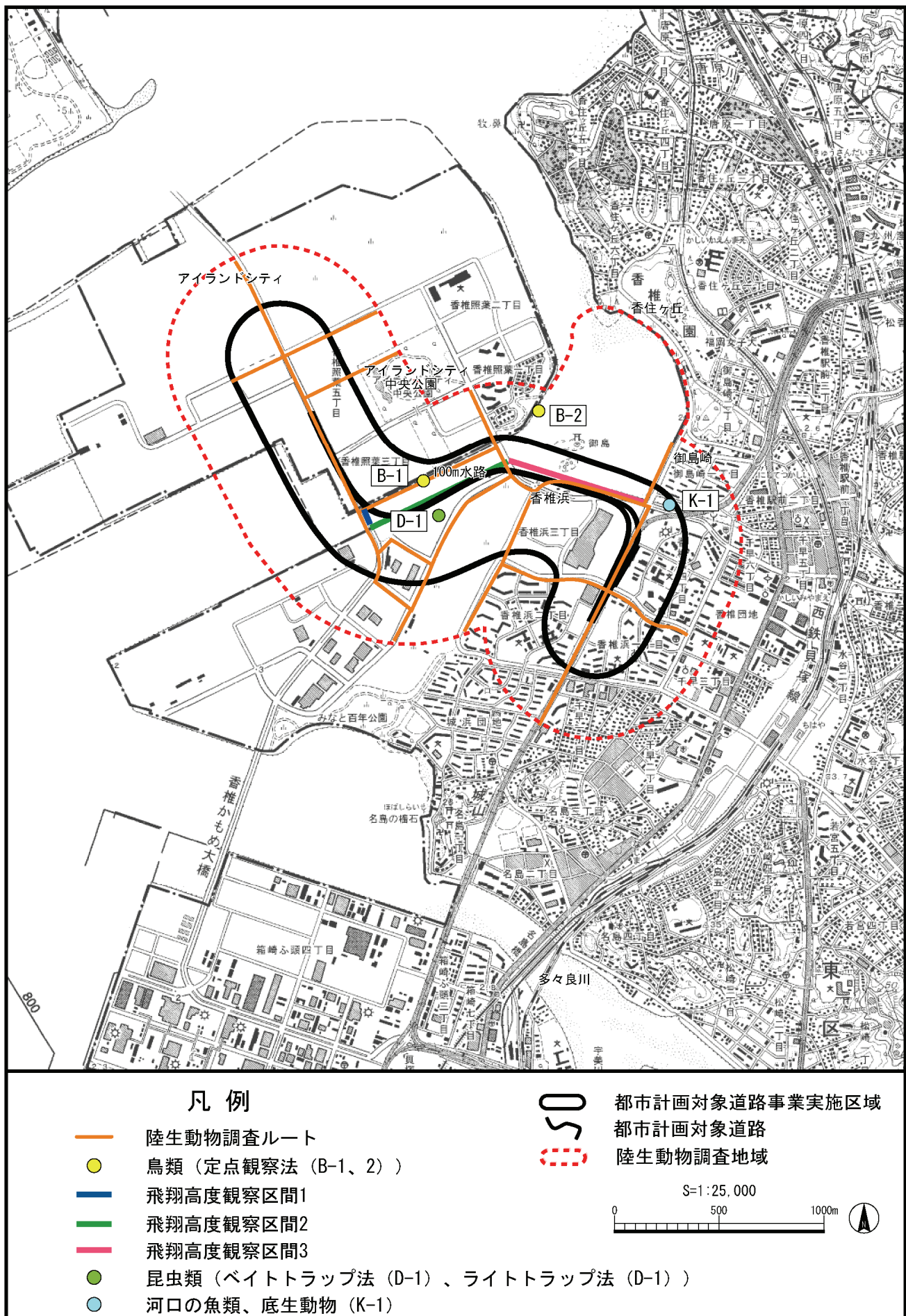
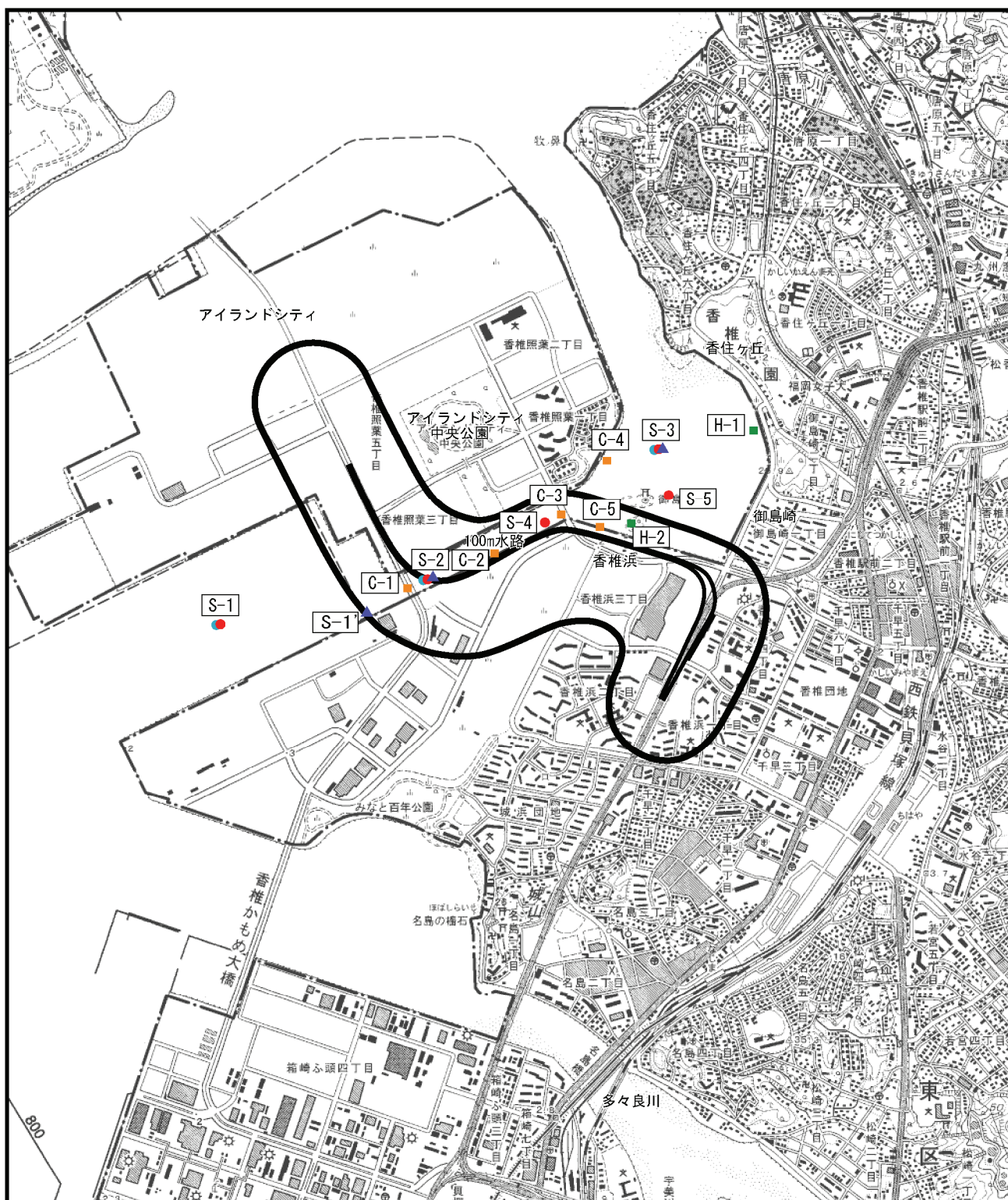


図 8-9-2(1) 動物の調査位置図（陸域）



凡 例



都市計画対象道路事業実施区域



都市計画対象道路



底生動物 (S-1~5)



動物プランクトン、魚卵・稚仔魚 (S-1~3)



遊泳生物 (S-1'~3)



砂浜・干潟生物 (H-1~2)



潮間帯付着動物 (C-1~5)

S=1:25,000

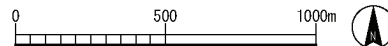


図 8-9-2 (2) 動物の調査位置図 (海域)

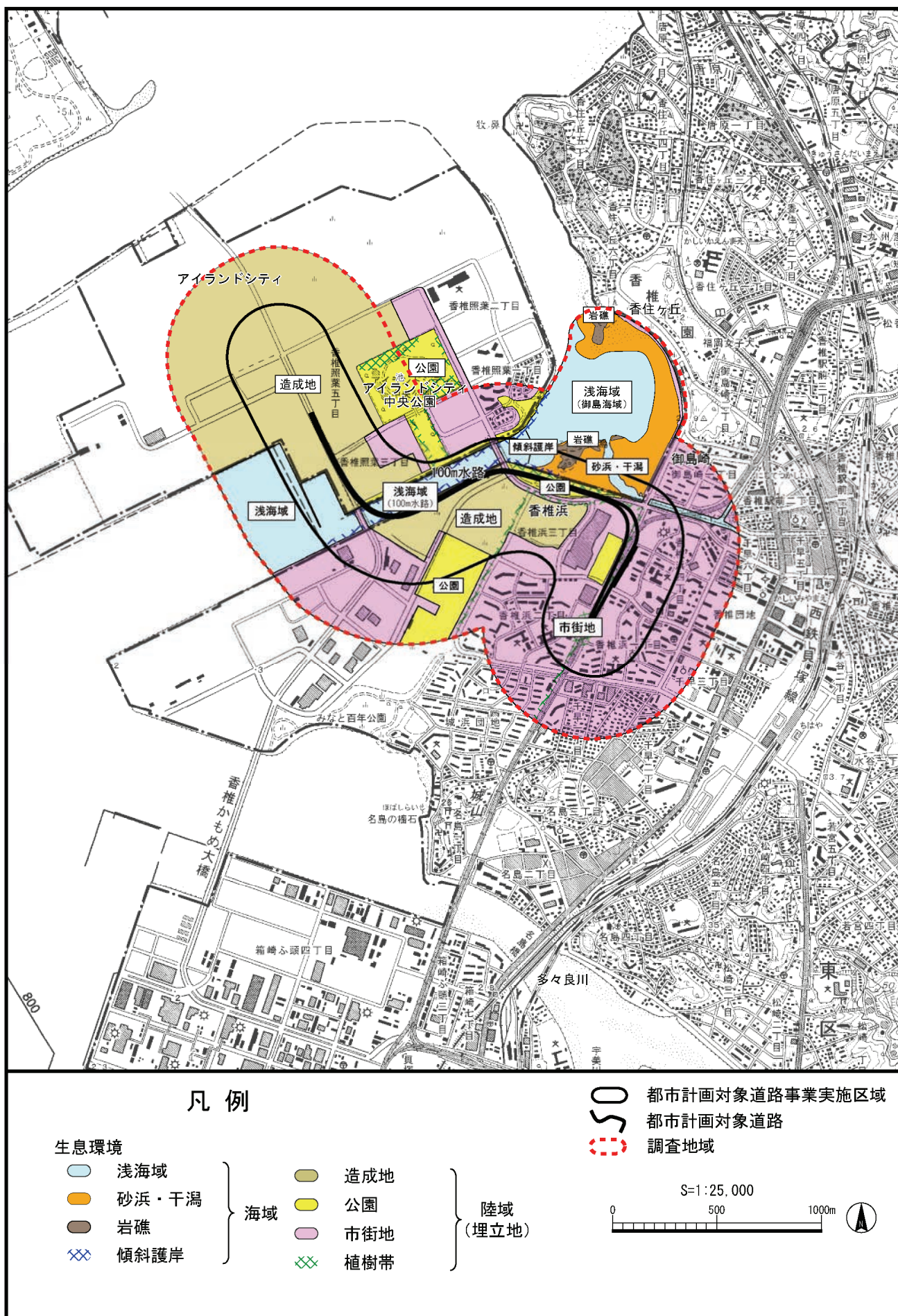


図 8-9-3 生息生育基盤

表 8-9-3 (1) 動物の現地調査時期等

調査すべき情報			調査方法	調査地域・ ルート・地点	調査時期
・動物相 ・重要な種に関する知見と生息の状況及び生息環境の状況	陸域	哺乳類	[現地調査] ・任意観察法 ・フィールドサイン法 ・コウモリ調査	都市計画対象道路事業実施区域周辺約250mの範囲に設定した調査ルート	秋季： 平成22年10月28日 冬季： 平成23年2月9日 春季： 平成23年5月18日 夏季： 平成23年7月25日
		鳥 類	[現地調査] ・任意観察法 ・ラインセンサス法 ・定点観察法	ラインセンサス法：都市計画対象道路事業実施区域周辺約250mの範囲に設定した調査ルート 定点観察法：都市計画対象道路事業実施区域の見渡せる2地点	秋季： 平成22年10月29日 冬季： 平成23年2月7、22日 春季： 平成23年5月18、19日 夏季： 平成23年7月13日 8月18日
		両生類 爬虫類	[現地調査] ・任意観察法	都市計画対象道路事業実施区域周辺約250mの範囲に設定した調査ルート	秋季： 平成22年10月28日 冬季（両生類のみ）： 平成23年2月9日 春季： 平成23年5月18日 夏季： 平成23年7月25日
		昆虫類	[現地調査] ・任意観察法 ・ライトトラップ法 ^{注)} ・ベイトトラップ法	任意観察法：都市計画対象道路事業実施区域周辺約250mの範囲に設定した調査ルート ライトトラップ法、ベイトトラップ法：橋脚設置箇所1地点	秋季： 平成22年10月28、29日 冬季： 平成23年2月24、25日 春季： 平成23年5月18、19日 夏季： 平成23年7月28、29日
		魚 類	[現地調査] ・任意観察法 ・漁具を用いた捕獲法	香椎川河口1地点	秋季： 平成22年10月20日 冬季： 平成23年1月17日 春季： 平成23年4月19日 夏季： 平成23年7月29日
		底生動物	[現地調査] ・任意観察法 ・漁具を用いた定性採取法または定量採取法		

注) ライトトラップ法は春季、夏季のみ調査を実施した。

表 8-9-3 (2) 動物の調査方法及び時期

調査すべき情報		調査方法	調査地点	調査時期	
・動物相 ・重要な種に関する知見と生息状況及び生息環境の状況	海 域	動物プランクトン	[現地調査] ・定量採集法	3 地点 (S-1～3)	秋季： 平成 22 年 11 月 3 日 冬季： 平成 23 年 2 月 20 日 春季： 平成 23 年 4 月 21 日 夏季： 平成 23 年 8 月 2 日
		底生動物	[現地調査] ・定量採集法	5 地点 (S-1～5)	秋季： 平成 22 年 10 月 25 日 冬季： 平成 23 年 1 月 21 日 春季： 平成 23 年 5 月 10 日 夏季： 平成 23 年 8 月 3 日
		砂浜・干潟生物	[現地調査] ・目視観察 ・定量採集法	2 地点 (H-1～2)	秋季： 平成 22 年 10 月 20 日 冬季： 平成 23 年 1 月 17 日 春季： 平成 23 年 5 月 2 日 夏季： 平成 23 年 7 月 29 日
		潮間帯付着動物	[現地調査] ・目視観察 ・定量採集法	5 地点 (C-1～5)	秋季： 平成 22 年 10 月 21 日 冬季： 平成 23 年 1 月 11 日 春季： 平成 23 年 4 月 27 日 夏季： 平成 23 年 7 月 22 日
		遊泳生物	[現地調査] ・採集法	3 地点 ^{注)} (S-1'、S-2～3)	秋季： 平成 22 年 10 月 21, 22 日 冬季： 平成 23 年 1 月 11, 12 日 春季： 平成 23 年 4 月 27, 28 日 夏季： 平成 23 年 7 月 22, 23 日
		魚卵・稚仔魚	[現地調査] ・採集法	3 地点 (S-1～3)	秋季： 平成 22 年 11 月 3 日 冬季： 平成 23 年 1 月 23 日 春季： 平成 23 年 4 月 21 日 夏季： 平成 23 年 8 月 2 日

注) 遊泳生物の調査地点 S-1' は、設置する刺網が S-1 では船舶の航行の妨げとなるため、水路付近まで移動した。

(2) 調査結果

1) 既存資料調査

a. 動物相の状況

ア. 哺乳類の状況

調査対象地域において生息記録のある哺乳類は、5 目 6 科 7 種である。

「福岡市環境配慮指針 改訂版」及び「自然環境調査（ほ乳類・は虫類・両生類の生息状況調査）委託」等によると、市街地ではアブラコウモリ、イタチ属の一種、樹林地や草地ではカヤネズミ、タヌキ、テン、イノシシが生息するとされている。

イ. 鳥類の状況

調査対象地域において生息記録のある鳥類は、17 目 51 科 254 種である。

「福岡市環境配慮指針 改訂版」及び「アイランドシティ整備事業環境監視結果」等によると、海域ではカンムリカイツブリ等のカイツブリ科、ヒドリガモ、スズガモ等のカモ科、ウミネコ、セグロカモメ等のカモメ科が生息するとされている。干潟では、ダイサギ、アオサギ等のサギ科、シロチドリ、ダイゼン等のチドリ科、ハマシギ、トウネン等のシギ科が生息するとされている。緑の多い市街地では、ヒヨドリ、シジュウカラ、スズメ、カワラバト（ドバト）等が確認されている。

ウ. 両生類の状況

調査対象地域において生息記録のある両生類は、1 目 1 科 1 種である。

「福岡市環境配慮指針 改訂版」によると、市街地の公園、草地等では、アマガエルが生息するとされている。

エ. 爬虫類の状況

調査対象地域において生息記録のある爬虫類は、2 目 3 科 3 種である。

「福岡市環境配慮指針 改訂版」によると、市街地のため池では、ミシシippアカミミガメ、緑が多い市街地ではヤモリ、カナヘビが生息するとされている。

オ. 昆虫類の状況

調査対象地域において生息記録のある昆虫類は、6 目 12 科 18 種である。

「福岡市環境配慮指針 改訂版」及び「市域生態系調査業務委託」等によると、市街地ではアオスジアゲハ、ミカドアゲハ、ウスバキトンボ、クマゼミ等、市街地のため池ではショウジョウトンボ、アオモンイトトンボ等の生息が確認されている。

カ. 動物プランクトンの状況

調査対象地域において生息記録のある動物プランクトンは、12 綱 9 目 14 科 30 種である。

「アイランドシティ整備事業環境監視結果」等によると、節足動物門の種数が最も多く、次いで原生動物門が多く生息しているとされる。

キ. 魚類の状況

調査対象地域において生息記録のある魚類は、9 目 14 科 28 種である。

「福岡市環境配慮指針 改訂版」及び「アイランドシティ整備事業環境監視結果」等によると、海域ではコノシロ、カタクチイワシ、スズキ等の海水魚、河川やため池ではニッポンバラタナゴ、メダカ等の淡水魚の生息が確認されている。

ク. 底生動物の状況

調査対象地域において生息記録のある底生動物は、54 目 146 科 279 種である。

「アイランドシティ整備事業環境監視結果」等によると、海域では巻貝類、ゴカイ類、ヨコエビ類、二枚貝類、カニ類が確認されている。

b. 重要種等の状況

重要な動物の選定にあたっては、最新の法律や資料により判断するものとし、表 8-9-4 に示す選定基準を用いた。

表 8-9-4 重要な動物種の選定基準

略称	選定基準	記号	選定基準となる区分
保護法	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号)	国特別	国指定特別天然記念物
		国指定	国指定天然記念物
	福岡県文化財保護条例 (昭和 30 年 条例第 25 号)	県指定	福岡県指定天然記念物
	福岡市文化財保護条例 (昭和 48 年 条例第 33 号)	市指定	福岡市指定天然記念物
保存法	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号)	国内	国内希少野生動植物種
		国際	国際希少野生動植物種
		緊急	緊急指定種
環境省 RL	「第 4 次レッドリストの公表について」(平成 24 年 8 月 28 日 環境省) 「第 4 次レッドリストの公表について(汽水・淡水魚類)」(平成 25 年 2 月 1 日 環境省)	CR	絶滅危惧ⅠA類
		EN	絶滅危惧ⅠB類
		VU	絶滅危惧Ⅱ類
		NT	準絶滅危惧
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群
		DD	情報不足
水産庁 RDB	「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」(水産庁 平成 12 年)	絶滅	絶滅危惧
		危急	危急
		希少	希少
		減少	減少
		減少傾向	減少傾向
		普通	普通
		地域	地域個体群
福岡県 RDB	「福岡県の希少野生生物ー福岡県レッドデータブック 2001ー」 (平成 13 年 3 月 福岡県) 「福岡県の希少野生生物ー福岡県レッドデータブック 2011ー」 (平成 23 年 11 月 福岡県)	EX	絶滅
		CR	絶滅危惧ⅠA類
		EN	絶滅危惧ⅠB類
		VU	絶滅危惧Ⅱ類
		NT	準絶滅危惧
		DD	情報不足
福岡市 指針	「福岡市環境配慮指針 改訂版」 (平成 19 年 2 月、福岡市環境局)	掲載種	福岡市内の貴重生物等

注) 福岡県 RDB に示されている資料のうち、哺乳類、鳥類の重要種の選定にあたっては、「福岡県の希少野生生物ー福岡県レッドデータブック 2011ー」を用い、爬虫類、両生類、昆虫類、動物プランクトン、魚類、底生動物の重要種の選定にあたっては、「福岡県の希少野生生物ー福岡県レッドデータブック 2001ー」を用いた。

注目すべき生息地の選定にあたっては、最新の法律や既存資料により判断するものとし、表 8-9-5 に示す選定基準を用いた。

表 8-9-5 注目すべき生息地の選定基準

略称	選定基準	記号	選定基準となる区分
保護法	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号)	国特別	国指定特別天然記念物
		国指定	国指定天然記念物
	福岡県文化財保護条例 (昭和 31 年 福岡県条例第 40 号) 市町村文化財保護条例	県指定	福岡県指定天然記念物
		(市町名)指定	各市町指定天然記念物
ラムサール	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」(昭和 55 年 9 月 22 日条約第 28 号)	指定	指定
保存法	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号)	保護区	生息地等保護区
世界遺産	「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(平成 4 年 9 月 28 日条約第 7 号)	指定	指定
重要湿地	日本の重要湿地 500 [環境省ホームページ] (環境省) http://www.sizenken.biodic.go.jp/wetland/	基準 1	湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合
		基準 2	希少種、固有種等が生育・生息している場合
		基準 3	多様な生物相を有している場合
		基準 4	特定の種の個体群のうち、相当数の割合の個体数が生息する場合
		基準 5	生物の生活史の中で不可欠な地域(採餌場、産卵場等)である場合

選定基準に基づいて抽出された重要な動物種の確認記録(種数)を表 8-9-6 に、確認された重要な動物種の確認状況は表 8-9-7 に示すとおりである。

図 8-9-1 に示す既存文献調査の調査地域で確認された重要な種は、哺乳類ではカヤネズミの 1 種、鳥類ではカンムリカイツブリ、クロツラヘラサギ等の 99 種、昆虫類ではタイワンウチワヤンマ、オオミズムシの 2 種、魚類ではメダカ、トビハゼ等の 6 種、底生動物ではオサガニ、ハクセンシオマネキ等の 23 種の確認記録がある。なお、爬虫類、両生類では、重要な種は確認されなかった。

重要な鳥類のうち、ハヤブサについては、「アイランドシティ環境モニタリング調査等業務委託報告書」の中で分布状況が整理されている。飛翔状況を図 8-9-4(1)に示す。シギ・チドリ類についても、「アイランドシティ海上遊歩道整備に係わる環境調査業務委託報告書」の中で飛翔状況が整理されている。飛翔状況は図 8-9-4(2)に示すとおりである。

また、調査地域には、注目すべき生息地として、日本の重要湿地 500 に選定されている「福岡湾（和白干潟・今津干潟）」が分布している。

表 8-9-6 調査地域における重要な動物の確認状況（種数）

分 類	確認記録（種数）	既存資料番号
哺乳類	1 種	1, 3, 5, 12
鳥 類	99 種	1, 2, 5, 13, 14, 25, 26, 27, 28
爬虫類	0 種	—
両生類	0 種	—
昆虫類	2 種	1, 4, 6, 7, 13, 17
動物プランクトン	0 種	—
魚 類	6 種	1, 2, 4, 6, 8, 13, 18, 19, 20
底生動物	23 種	1, 2, 4, 9, 10, 11, 13, 20

表 8-9-7 (1) 既存資料調査による重要な動物の確認状況

番号	分類	科名	種名	既存資料番号	選定基準					
					保護法	保存法	環境省RL	水産RDB	福岡RDB	福岡市指針
1	哺乳類	ネズミ	カヤネズミ	1, 3, 5, 12					VU	掲載種
2	鳥類	アヒ	シロエリオオハム	2, 25					NT	
3		カイツブリ	カンムリカイツブリ	1, 2, 5, 14					NT	掲載種
4		ウ	ヒメウ	25			EN			
5		サギ	サンカノゴイ	1, 5			EN		NT	掲載種
6			ヨシゴイ	2, 5, 14			NT		CR	掲載種
7			ミゾゴイ	1, 5, 14			VU		EN	掲載種
8			ササゴイ	2, 25					NT	
9			アマサギ	2, 25					NT	
10			チュウサギ	1, 2, 5, 14, 25			NT	希少	NT	掲載種
11			カラシラサギ	1, 2, 5, 14, 25			NT		EN	掲載種
12			クロサギ	2, 25					NT	
13		コウノトリ	コウノトリ	2			CR			
14		トキ	ヘラサギ	1, 2, 5, 25, 28			DD		EN	掲載種
15			クロツラヘラサギ	1, 2, 5, 14, 25, 28			EN	危惧	EN	掲載種
16		カモ	コカゲン	1, 2, 5, 25	国指定		VU	希少		掲載種
17			マカゲン	1, 2, 5, 14	国指定		NT			掲載種
18			ヒシクイ	1, 2, 5, 14, 25	国指定		VU			掲載種
19			オオハクチョウ	1, 2						掲載種
20			コハクチョウ	1, 2						掲載種
21			アカツクシガモ	1, 2, 14			DD			掲載種
22			ツクシガモ	2, 5, 14, 25, 28			VU		NT	掲載種
23			オシトリ	1, 2, 5, 14, 25			DD		NT	掲載種
24			トモエカモ	1, 2, 5, 14, 25			VU		VU	掲載種
25			アカハシロ	1, 2, 5			DD			掲載種
26			クロカモ	25					VU	
27			シロカモ	1, 2, 5, 14, 25					VU	掲載種
28			ホオジロカモ	2, 25					VU	
29			ミコアイサ	2, 25					VU	
30		カ	ミサコ	1, 2, 5, 13, 14, 25			NT			掲載種
31			ハチクマ	1, 2, 5, 13, 14, 25			NT		NT	掲載種
32			オオカ	1, 2, 5, 13, 14, 25		国内	NT		NT	掲載種
33			ツミ	25					VU	
34			ハイタカ	1, 2, 5, 13, 14, 25			NT			掲載種
35			ノスリ	2, 25					NT	
36			サシバ	2, 5, 13, 14, 25			VU		NT	掲載種
37			ハイロチュウヒ	2, 25					NT	
38			チュウヒ	1, 2, 5, 14			EN		CR	掲載種
39		ハヤブサ	ハヤブサ	1, 2, 5, 13, 14, 25		国内	VU		VU	掲載種
40			コチョウゲンボウ	2, 25					NT	

注 1) 既存資料番号は表8-9-1の番号と対応している。

2) 選定基準は表8-9-4の記号と対応している。

3) 既存資料調査の調査地域は図8-9-1に示したとおりである。

表 8-9-7 (2) 既存資料調査による重要な動物の確認状況

番号	分類	科名	種名	既存資料番号	選定基準					
					保護法	保存法	環境省 R	水産 RDB	福岡 RDB	福岡市指針
41	鳥類	キン	ウスラ	2, 5, 14			VU		DD	掲載種
42			ヤマトリ	1, 5, 14, 25					VU	掲載種
43		ツル	ナベヅル	1, 2, 5, 25		国際	VU			掲載種
44			マナヅル	1, 2, 5, 14		国際	VU			掲載種
45		クイナ	クイナ	2, 25					NT	
46			ヒクイナ	2, 5, 14, 25			NT		NT	掲載種
47			シマクイナ	1			EN			掲載種
48			シロハラクイナ	1, 2						掲載種
49		タマシギ	タマシギ	2, 5, 14, 25			VU		NT	掲載種
50		ミヤコトリ	ミヤコトリ	1, 2, 14, 25, 26, 27, 28					VU	掲載種
51		チドリ	イカルチドリ	1, 2, 5, 14, 25, 27, 28					VU	掲載種
52			シロチドリ	2, 25, 26, 27, 28			VU		NT	
53			ケリ	1, 2, 5, 14, 25, 28			DD		NT	掲載種
54			タケリ	2, 25					NT	
55		シギ	ウスラシギ	1, 2, 14, 25, 26, 27, 28					VU	掲載種
56			ハマシギ	1, 2, 25, 26, 27, 28					NT	
57			ミユビシギ	2, 25, 26, 27, 28					NT	
58			ヘラシギ	1, 2, 5, 25, 27, 28			CR		CR	掲載種
59			シベリアオオハシギ	1, 2, 5, 25			DD			掲載種
60			ツルシギ	2, 25, 27, 28			VU			
61			アカアシシギ	1, 2, 4, 14, 25, 26, 28			VU			掲載種
62			カラフトオアシシギ	1, 2, 5, 28		国内	CR		CR	掲載種
63			タカアシシギ	1, 2, 14, 25, 26, 27, 28			VU		VU	掲載種
64			オクロシギ	2, 25, 27, 28					NT	
65			オソリハシギ	2, 25, 26, 27, 28			VU		NT	
66			ダイシャクシギ	1, 2, 14, 25, 26, 27, 28					VU	掲載種
67			ホウロクシギ	1, 2, 5, 14, 25, 26, 28			VU		VU	掲載種
68			コシヤクシギ	1, 2, 14, 25			EN			掲載種
69			オオシギ	1, 5			NT			掲載種
70		セイタカシギ	セイタカシギ	1, 2, 14, 25, 26, 28			VU	希少		掲載種
71		ツバメチドリ	ツバメチドリ	1, 2, 5			VU		VU	掲載種
72		カモメ	スズクモカモメ	1, 2, 5, 14, 25, 28			VU	危惧	VU	掲載種
73			ベニアシサシ	2, 5, 25			VU		EN	掲載種
74			コアシサシ	1, 2, 5, 14, 25			VU	減傾	VU	掲載種
75		ウミスズメ	マダラウミスズメ	1, 14			DD	希少		掲載種
76			ウミスズメ	1, 2, 14			CR	危惧	NT	掲載種
77			カンムリウミスズメ	1, 2, 5, 14			VU	危惧	CR	掲載種
78		ハト	アオハト	1, 2, 14, 25						掲載種
79		カッコウ	ジュウイチ	25					NT	
80			ツツドリ	25					NT	

注 1) 既存資料番号は表8-9-1の番号と対応している。

2) 選定基準は表8-9-4の記号と対応している。

3) 既存資料調査の調査地域は図8-9-1に示したとおりである。

表 8-9-7 (3) 既存資料調査による重要な動物の確認状況

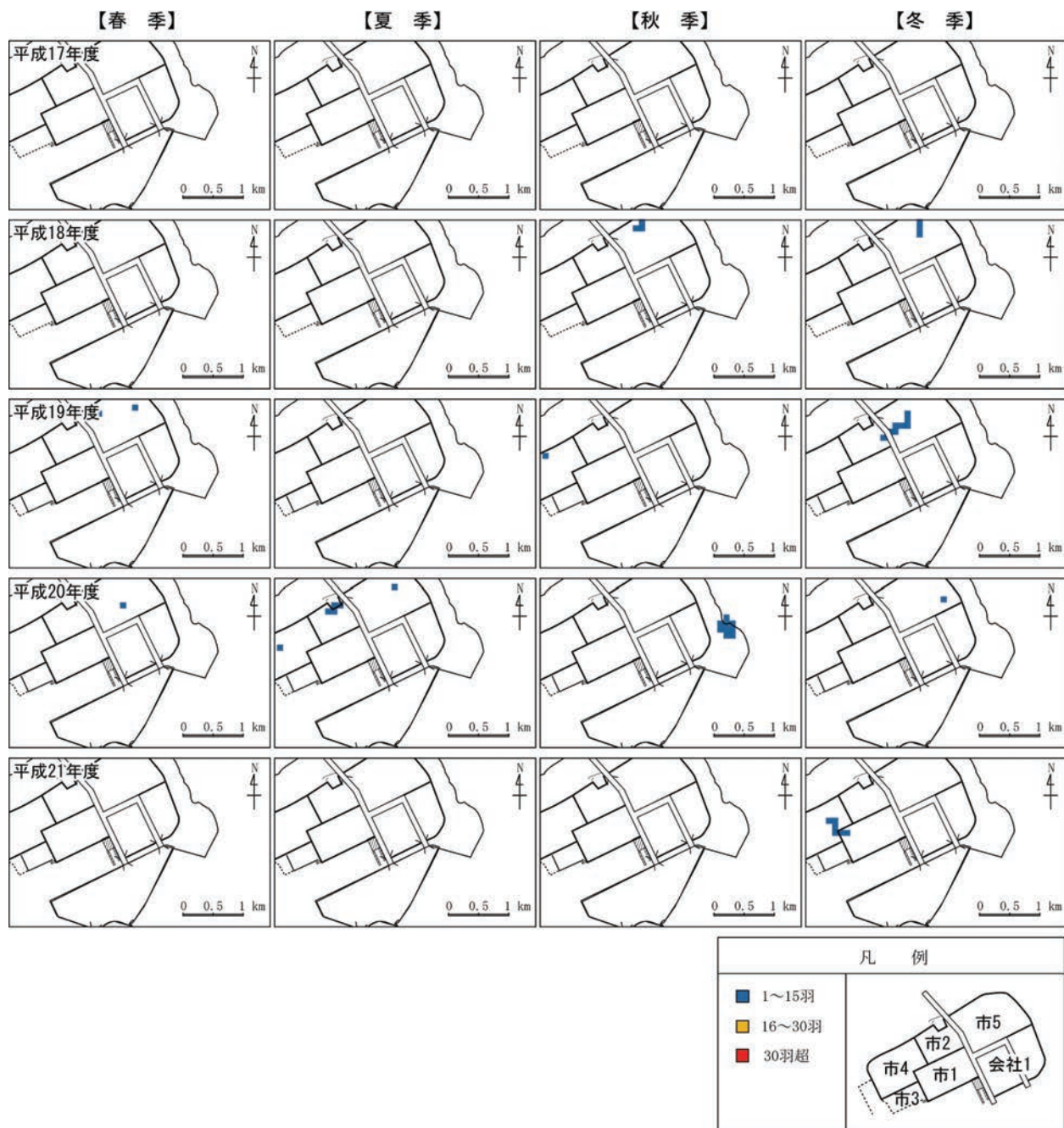
番号	分類	科名	種名	既存資料番号	選定基準					
					保護法	保存法	環境省 R	水産 RDB	福岡 RDB	福岡市指針
81	鳥類	フクロウ	コミズク	2, 25					VU	
82		カワセミ	ヤマセミ	25					NT	
83			アカショウビーン	5, 14, 25					VU	掲載種
84		ブッポウソウ	ブッポウソウ	1, 5, 14, 25			EN		CR	掲載種
85		ヤイロチョウ	ヤイロチョウ	1, 5, 14, 25		国内	EN		EN	掲載種
86		ツバメ	コシアカツバメ	25					NT	
87		セキレイ	ツメカセキレイ	1, 2, 14, 25						掲載種
88		モズ	アカモズ	25			EN			
89		ツグミ	コルリ	25					EN	
90			クロツグミ	2, 25					NT	
91		ウグイス	オオヨシキリ	2, 5, 14, 25					NT	掲載種
92			センダングサ	2, 25					VU	
93		ヒタキ	キビタキ	1, 2, 5, 13, 14, 25						掲載種
94			オオルリ	2, 5, 14, 25					NT	掲載種
95			コサメビタキ	25					DD	
96		ツリスカラ	ツリスカラ	1, 2, 14, 25					NT	掲載種
97		ホオジロ	ノジコ	1, 13, 14			NT			掲載種
98		ムクドリ	コムクドリ	1, 2, 13, 14, 25						掲載種
99			ホシムクドリ	1, 2, 14, 25						掲載種
100		カラス	カササギ	1, 2, 5, 13, 14, 25						掲載種
101	昆虫類	サナエトンボ	タイワンウチワヤンマ	1, 6, 7, 13, 17						掲載種
102		ミスズムシ	オオミスズムシ	1, 4			NT		CR+EN	掲載種
103	魚類	コイ	セボシタビラ	1			CR	希少	CR	掲載種
104			ニッポシナバタナゴ	1, 4, 8			CR	危惧	VU	掲載種
105		メダカ	メダカ	1, 4, 6, 8, 13, 18, 19			VU		NT	掲載種
106		ハゼ	トビハゼ	1, 2, 4, 20			NT	減少	EN	掲載種
107			シロウオ	1, 4			VU	減少	NT	掲載種
108			マサコハゼ	2			VU			
109	底生動物	アマオブネガイ	ヒロクチカノコガイ	1, 4			NT	希少	VU	掲載種
110		ウミナ	ウミナ	2, 11			NT	減傾		
111		フトヘナタリガイ	フトヘナタリガイ	2, 4, 20			NT		NT	掲載種
112		ササナミツボ	ササナミツボ	2			NT			
113		カワサシショウガイ	クリイロカワサシショウガイ	2, 11, 20					NT	掲載種
114			カワサシショウガイ	2, 4, 9, 11, 20					NT	掲載種
115			オオウスイロヘソカガイ	1, 4					NT	掲載種
116		ミスゴマツボ	エトガミズゴマツボ	2			NT			
117		アツキガイ	アカニシ	2				減少		
118		ムシロガイ	ムシロガイ	2			NT			
119		オカミミガイ	ナラビオカミミガイ	2, 4, 10, 20			VU		CR+EN	掲載種
120			オカミミガイ	2, 4, 20			VU	危急	VU	掲載種

- 注 1) 既存資料番号は表8-9-1の番号と対応している。
 2) 選定基準は表8-9-4の記号と対応している。
 3) 既存資料調査の調査地域は図8-9-1に示したとおりである。

表 8-9-7 (4) 既存資料調査による重要な動物の確認状況

番号	分類	科名	種名	既存資料番号	選定基準					
					保護法	保存法	環境省 R	水産 RDB	福岡 RDB	福岡市指針
121	底生動物	オカミガイ	キカガハミガイ	2, 4, 20			VU		CR+EN	掲載種
122		ニッコウガイ	サクラガイ	2			NT			
123		オオノガイ	オオノガイ	11			NT			
124		スナホリムシ	ヒカダスナホリムシ	2			NT			掲載種
125		オサガニ	オサガニ	2, 4, 20					NT	掲載種
126		スナガニ	ハクセンシオマネキ	1, 2, 11, 20			VU		NT	掲載種
127		ベンケイガニ	ハマガニ	2, 20					NT	掲載種
128			ヒメアシハラガニ	1, 2, 4, 11, 20					NT	掲載種
129			クシテガニ	1, 4					NT	掲載種
130			ベンケイガニ	2, 20					CR+EN	掲載種
131		モクスガニ	ウモレベンケイガニ	1, 2, 4, 10, 20					NT	掲載種

- 注 1) 既存資料番号は表8-9-1の番号と対応している。
 2) 選定基準は表8-9-4の記号と対応している。
 3) 既存資料調査の調査地域は図8-9-1に示したとおりである。



注) 各工区の埋立竣工年度は、会社1：平成9年度、市1：平成12年度、市2：平成14年度、市3：平成20年度、市4：平成24年度（予定）、市5：平成19～23年度（順次竣工予定）である。

出典：「平成17～21年度 アイランドシティ環境モニタリング調査等業務委託報告書」（福岡市環境局）

図 8-9-4(1) ハヤブサの分布状況（既存資料調査）

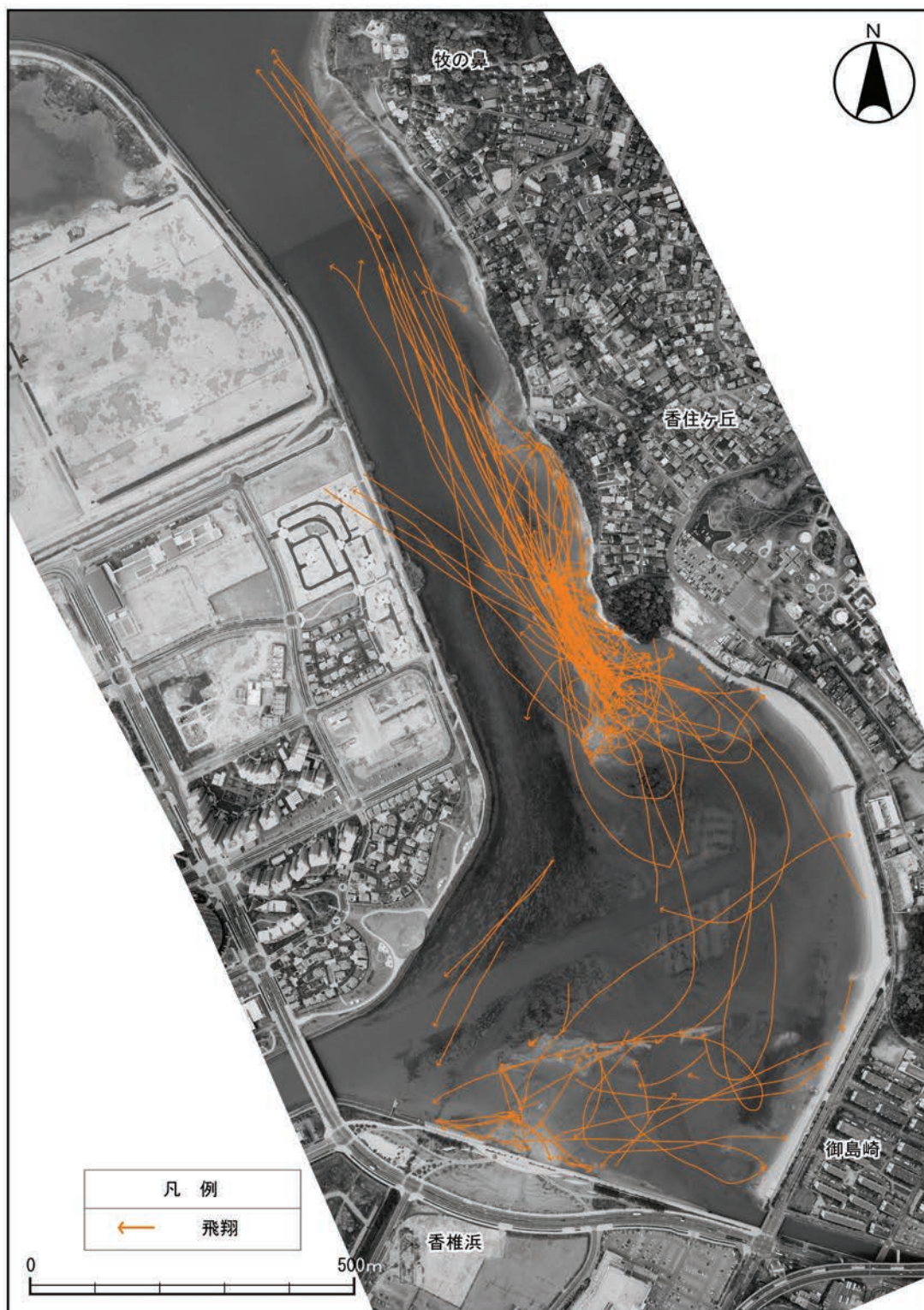


図 8-9-4(2) シギ・チドリ類の飛翔状況（既存資料調査）

資料：「平成 22 年度 アイランドシティ海上遊歩道整備に係わる環境調査業務委託 報告書」（平成 23 年 福岡市）

2) 現地調査

a. 動物相の状況

現地調査の結果、調査地域において確認された動物相の状況は表 8-9-8 に示すとおりである。

なお、海域を対象に実施した動物プランクトン、底生動物、砂浜・干潟生物、潮間帯付着動物、遊泳生物、魚卵・稚仔魚に係る調査結果については、確認された動物種の分類に応じて整理した。

表 8-9-8 調査地域の動物相

項目	目数	科数	種数
哺乳類	2	2	2
鳥類	10	31	76
爬虫類	2	4	4
両生類	1	2	3
昆虫類	13	119	277
動物プランクトン	16	26	65
魚類	9	25	43
底生動物	58	150	278

注) 動物相の調査結果は、確認された動物種の分類に応じて整理した。

ア. 哺乳類

哺乳類については、表 8-9-9 に示すとおり 2 目 2 科 2 種が確認された。

確認された種は、アブラコウモリ、イタチ属の一種の 2 種であり、いずれの種も造成地の草地や裸地で確認された。調査地域は市街地及びアイランドシティであり、生息する哺乳類は少なく、都市環境に適応したものが中心であると考えられる。

表 8-9-9 哺乳類の確認状況

No.	目名	科名	種名
1	コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ
2	ネコ	イタチ	イタチ属の一種
2 目 2 科 2 種			

イ. 鳥類

【確認種について】

鳥類については、表 8-9-10 に示すとおり 10 目 30 科 76 種が確認された。

市街地の沿道の植樹帯では、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、シロハラ、シジュウカラ等の都市公園に普通にみられる種が多く確認された。造成地の草地では、ヒバリ、ホオジロ、セッカ等の荒地、草地に生息する種が確認された他、渡りの途中のノビタキ、越冬するチョウゲンボウが確認された。

アイランドシティ中央公園では、樹林地にキジバト、ヒヨドリ、シジュウカラ、カワラヒワ、メジロ等の留鳥、ビンズイ、ジョウビタキ、シロハラ等の冬鳥が確認された。公園内の池では、カイツブリ、オオバン、バン、ヒドリガモ等の水鳥、水際のヨシでは、夏鳥のオオヨシキリがみられた。

御島周辺の浅海域では、渡りの途中に立ち寄ったと思われるミヤコドリ、トウネン、キアシシギ、アオアシシギ、チュウシャクシギ等のシギ・チドリ類、ウミネコ、コアシサシ等のカモメ・アジサシ類、ダイサギ、アオサギ等のサギ類が確認された。

表 8-9-10(1) 鳥類の確認状況

No.	目名	科名	種名	春季	夏季	秋季	冬季
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	○	○	○	○
2			ハジロカイツブリ				○
3			カンムリカイツブリ			○	○
4	ペリカン	ウ	カワウ	○	○	○	○
5	コウノトリ	サギ	ダイサギ	○	○	○	
6			コサギ	○	○	○	○
7			アオサギ	○	○	○	○
8		トキ	クロツラヘラサギ				○
9	カモ	カモ	マガモ	○		○	○
10			カルガモ	○		○	○
11			オカヨシガモ	○	○	○	○
12			ヒドリガモ			○	○
13			オナガガモ				○
14			ホシハジロ			○	○
15			キンクロハジロ			○	○
16			スズガモ				○
17			ホオジロガモ				○
18			ウミアイサ			○	○
19	タカ	タカ	ミサゴ	○	○	○	○
20			トビ	○	○	○	○
21			ハイタカ			○	
22		ハヤブサ	ハヤブサ	○	○	○	○
23			チョウゲンボウ			○	○
24	ツル	クイナ	バン	○	○	○	○
25			オオバン			○	○
26	チドリ	ミヤコドリ	ミヤコドリ	○	○	○	
27		チドリ	コチドリ	○			
28		シギ	トウネン	○			
29			ハマシギ	○			
30			オバシギ		○		
31			アオアシシギ		○	○	
32			キアシシギ	○	○		
33			イソシギ	○	○		
34			ソリハシシギ	○	○		
35			ホウロクシギ			○	
36			チュウシャクシギ	○			
37		カモメ	ユリカモメ				○
38			セグロカモメ			○	○
39			カモメ				○
40			ウミネコ		○	○	
41			コアジサシ	○			

注) 「○」は確認されたことを示す。

種名、配列は「日本鳥類目録改訂第6版(平成12年 日本鳥学会)」に従った。

表 8-9-10(2) 鳥類の確認状況

No.	目名	科名	種名	春季	夏季	秋季	冬季
42	ハト	ハト	キジバト	○	○	○	○
43	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	○			
44	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	○	○	○	○
45		ツバメ	ツバメ	○	○		
46		セキレイ	ハクセキレイ	○	○	○	○
47			セグロセキレイ		○		
48			ビンズイ			○	
49			タヒバリ			○	
50		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○
51		モズ	モズ			○	○
52		ツグミ	ジョウビタキ			○	○
53			ノビタキ			○	
54			イソヒヨドリ	○	○		○
55			シロハラ			○	○
56			ツグミ			○	○
57		ウグイス	ウグイス			○	
58			オオヨシキリ	○	○		
59			クキイタダキ			○	
60			セッカ	○	○	○	
61		ヒタキ	コサメビタキ	○			
62		シジュウカラ	シジュウカラ	○	○	○	○
63		メジロ	メジロ			○	○
64		ホオジロ	ホオジロ	○	○	○	○
65			ミヤマホオジロ			○	
66			アオジ				○
67		アトリ	カワラヒワ	○	○	○	○
68			マヒワ				○
69			イカル				○
70			シメ				○
71		ハタオリドリ	スズメ	○	○	○	○
72		ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○
73		カラス	ハシボソガラス	○	○	○	○
74			ハシブトガラス	○	○	○	○
75		チメドリ	ソウシチョウ			○	○
76	ハト	ハト	カワラバト (ドバト)	○	○	○	○
合計	10 目 30 科 76 種			39 種	34 種	50 種	49 種

注) 「○」は確認されたことを示す。

種名、配列は「日本鳥類目録改訂第6版(平成12年 日本鳥学会)」に従った。

【飛翔高度について】

飛翔高度観察区間（1～3）で確認された種毎の飛翔高度に係る調査結果は表 8-9-11 に示すとおりである。

確認高度観察区間で確認された鳥類は合計 401 個体で、そのうちの約 3 割が 20m 以上を飛翔していた。

表 8-9-11 飛翔高度の調査結果

(単位：回)

No.	目名	科名	種名	飛翔高度 観察区間 1		飛翔高度 観察区間 2		飛翔高度 観察区間 3		合計
				20m 未満	20m 以上	20m 未満	20m 以上	20m 未満	20m 以上	
1	ペリカン	ウ	カワウ	14	6	13	6	5	0	44
2	コウノトリ	サギ	ダイサギ	1	0	1	0	0	0	2
4			アオサギ	1	0	5	1	5	1	13
5		トキ	クロツラヘラサギ	0	0	0	1	0	0	1
6	カモ	カモ	カルガモ	0	0	9	3	2	0	14
7			ヒドリガモ	0	1	0	1	0	0	2
8			オナガガモ	0	0	0	1	0	0	1
9	タカ	タカ	ミサゴ	0	4	4	11	0	8	27
10			トビ	7	3	30	10	1	18	69
11		ハヤブサ	ハヤブサ	0	0	0	1	0	1	2
12	チドリ	シギ	キアシシギ	0	0	1	0	0	0	1
13		カモメ	セグロカモメ	10	0	1	0	0	0	11
14			カモメ	9	2	12	1	0	1	25
15			ウミネコ	23	0	17	1	1	0	42
16			コアジサシ	0	0	1	1	0	2	4
17	ハト	ハト	キジバト	0	0	5	0	2	0	7
18	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	0	0	10	0	0	0	10
19		ツバメ	ツバメ	0	0	4	0	1	1	6
20		セキレイ	ハクセキレイ	0	0	10	0	0	0	10
21			タヒバリ	0	0	0	0	0	1	1
22		ヒヨドリ	ヒヨドリ	0	0	3	1	1	3	8
23		ツグミ	ジョウビタキ	0	0	1	0	0	0	1
24			シロハラ	0	0	2	0	0	0	2
25			ツグミ	0	0	6	0	1	2	9
26		ウグイス	セッカ	0	0	2	0	0	0	2
27		ホオジロ	ホオジロ	0	0	7	0	0	0	7
28		アトリ	カワラヒワ	0	0	3	0	1	0	4
29		ハタオリドリ	スズメ	0	0	4	0	2	0	6
30		ムクドリ	ムクドリ	0	0	20	0	5	0	25
31		カラス	ハシボソガラス	3	0	14	3	2	3	25
32			ハシブトガラス	0	0	12	3	3	2	20
合計				68	16	197	45	32	43	401

注) 種名、配列は「日本鳥類目録改訂第 6 版(平成 12 年 日本鳥学会)」に従った。

ウ. 爬虫類

爬虫類については、表 8-9-12 に示すとおり 2 目 4 科 4 種が確認された。

市街地の植樹帯周辺でヤモリ、カナヘビ、シマヘビが確認された。アイランドシティ中央公園周辺の水域ではアカミミガメが確認された。

表 8-9-12 爬虫類の確認状況

No.	目名	科名	種名
1	カメ	ヌマガメ	アカミミガメ
2	トカゲ	ヤモリ	ヤモリ
3		カナヘビ	カナヘビ
4		ヘビ	シマヘビ
2 目 4 科 4 種			

エ. 両生類

両生類については、表 8-9-13 に示すとおり 1 目 2 科 3 種が確認された。

アイランドシティ中央公園周辺の草地ではヌマガエル、アマガエル、水域ではウシガエルが確認された。

表 8-9-13 両生類の確認状況

No.	目名	科名	種名
1	カエル	アマガエル	アマガエル
2		アカガエル	ヌマガエル
3			ウシガエル
1 目 2 科 3 種			

オ. 昆虫類

昆虫類については、表 8-9-14 に示すとおり、クモ類も合わせて 13 目 119 科 272 種が確認された。

目別の確認種数をみると、コウチュウ目及びカメムシ目が多く、全体の約 4 割を占めていた。また、調査地域には造成地や公園内に草地が多いことから、チョウ目、バッタ目も多く確認された。

市街地の沿道の植樹帯では、クマゼミ、アブラゼミ、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、キマダラカメムシ等の都市公園に普通にみられる種が多く確認された。造成地の草地では、トノサマバッタ、マダラバッタ等のバッタ類、ヒメアカタテハ、モンシロチョウ等のチョウ類、ナナホシテントウ、ナミテントウ等のテントウ類、コアオハナムグリ、マメコガネ等の荒地、草地に生息する種が確認された。

アイランドシティ中央公園では、樹林地にクマゼミ、アブラゼミ、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、キマダラカメムシ等、公園内の池ではアオモンイトトンボ、ギンヤンマ、チョウトンボ等のトンボ類、ハイイロゲンゴロウ等のゲンゴロウ類がみられた。

表 8-9-14 昆虫類の確認状況（目別確認状況）

綱名	目名	科数	種数
昆虫	トビムシ	－	1
	トンボ	4	10
	ゴキブリ	2	3
	カマキリ	1	3
	バッタ	9	21
	ハサミムシ	2	3
	カメムシ	27	55
	アミメカゲロウ	2	2
	コウチュウ	20	58
	ハチ	16	46
	ハエ	16	23
	チョウ	14	39
	クモ	6	8
13 目 119 科 272 種			

注) 科数及び種数は、「平成 18 年度版河川水辺の国勢調査基本調査マニュアル」（国土交通省）に準拠して通計した。

カ. 動物プランクトン

動物プランクトンについては、表 8-9-15 に示すとおり 12 門 20 綱 16 目 26 科 64 種が確認された。

全調査を通して、門別種数は節足動物門が最も多く、次いで原生動物門が多かった。確認された種の多くが、日本各地の内湾や浅海域に普通にみられる種であった。

表 8-9-15 動物プランクトンの確認状況（分類別確認状況）

門名	綱名	目名	科数	種数
原生動物	キネトフラグミノフォーラ	原口	1	1
	多膜類繊毛虫	小毛類繊毛虫	4	11
	太陽虫	タクソボーダ	－	1
刺胞動物	ヒドロ虫	花クラゲ	1	1
		軟クラゲ	－	1
袋形動物	線虫	－	－	1
	輪虫	プロイマ	2	2
節足動物	アゴアシ	鰓脚	1	2
		無柄	－	1
		カラヌス	9	16
		キクロプス	1	4
		ハルパクチクス	3	3
		ポエキロストム	2	2
	軟甲	等脚	－	1
		十脚	－	3
毛顎動物	現生矢虫	無膜	1	2
原索動物	尾虫	尾虫	1	1
	尾索	－	－	1
	ホヤ	－	－	1
触手動物	ハウキムシ	－	－	1
	苔虫	－	－	1
軟体動物	腹足	－	－	1
	二枚貝	－	－	1
環形動物	多毛	－	－	1
半索動物	ギボシムシ	－	－	1
棘皮動物	クモヒトデ	－	－	1
脊椎動物	－	－	－	2
12 門 20 綱 16 目 26 科 64 種				

注) 科数及び種数は、「平成 18 年度版河川水辺の国勢調査基本調査マニュアル」(国土交通省) に準拠して通計した。

同定できない場合は、綱、目及び科数は合計に含めていない。

キ. 魚類

魚類については、表 8-9-16 に示すとおり 9 目 25 科 43 種が確認された。

御島の浅海域では、回遊するマアジ、ボラ、浅海域の中層から底層に生息するマダイ、マハゼ、スズキ、底層に生息するヒラメ等が確認された。また、護岸や岩礁周辺ではメバル、シロメバル、トサカギンボ等の海藻が繁茂する環境に生息する魚類が確認された。

表 8-9-16 魚類の確認状況

No.	目名	科名	種名
1	エイ	アカエイ	アカエイ
2		ツバクロエイ	ツバクロエイ
3	ニシン	ニシン	コノシロ
4		カタクチイワシ	カタクチイワシ
5	ウナギ	アナゴ	マアナゴ
6	ナマズ	ゴンズイ	ゴンズイ
7	スズキ	ボラ	ボラ
8			セスジボラ
9		スズキ	スズキ
10		アジ	マアジ
11		ヒイラギ	ヒイラギ
12		ニベ	シログチ
13		メジナ	メジナ
14		タイ	マダイ
15			ヘダイ
16			クロダイ
17		ウミタナゴ	ウミタナゴ
18		ハゼ	スジハゼ
19			ヒメハゼ
20			アベハゼ
21			アカオビシマハゼ
22			シモフリシマハゼ
23			ウロハゼ
24			マハゼ
25			アシシロハゼ
26			チワラスボ
27		イソギンボ	トサカギンボ
28			クモギンボ
29			イダテンギンボ
30	カサゴ	フサカサゴ	シロメバル
31			メバル
32			タケノコメバル
33			カサゴ
34		アイナメ	アイナメ科の数種
35		コチ	コチ
36		カジカ	アサヒアナハゼ
37	ウバウオ	ネズッポ	ハタタテヌメリ
38	カレイ	ヒラメ	ヒラメ
39		カレイ	マコガレイ
40			イシガレイ
41	フグ	カワハギ	カワハギ
42		フグ	クサフグ
43			ヒガンフグ
合計	9 目 25 科 43 種		

注) アイナメ科の種数は 1 種として通計した。

7. 底生動物

底生動物については、表 8-9-17 に示すとおり 24 綱 58 目 150 科 278 種が確認された。

綱別確認種数は、ゴカイ綱及び甲殻綱が多く、全体の約 5 割以上を占めていた。

御島の浅海域底層では、砂泥質に生息するアラムシロガイ、ヒメシラトリガイ、コケゴカイ等、泥質に生息するホトトギスガイ、シズクガイ、モロテゴカイ、ミズヒキゴカイ等が確認された。御島の干潟では、砂泥質に生息するアサリ、オキシジミガイ、ヒメシラトリガイ、ホソウミニナ等の貝類、コケゴカイ、チロリ等のゴカイ類、オサガニ、ハクセンシオマネキ等のカニ類、泥質に生息するホソイトゴカイ、ホトトギスガイ、アラムシロガイ等が確認された。護岸や岩礁では、イシダタミガイ、クログチガイ、タマキビガイ等の貝類、タテジマフジツボ、シロスジフジツボ等のフジツボ類等が確認された。また、藻場ではコシダカガンガラガイ、フレリトゲアメフラシ、アメフラシ、ムギガイ等が確認された。

表 8-9-17 (1) 底生動物の確認状況（分類別確認状況）

綱名	目名	科数	種数
尋常海綿	磯海綿	1	2
ヒドロ虫	軟クラゲ	2	2
花虫	イソギンチャク	2	2
渦虫	多岐腸	-	1
無針	古紐虫	-	1
	異紐虫	1	1
有針	針紐虫	-	1
ヒザラガイ	新ヒザラガイ	3	3
マキガイ	原始腹足	4	9
	中腹足	6	9
	異足	1	1
	新腹足	3	7
	腸紐	1	5
	頭楯	2	2
	無楯	1	1
	裸鰓	-	1
	ミノウミウシ	1	1
	原始有肺	1	1
ニマイガイ	フネガイ	1	3
	イガイ	1	8
	ウグイスガイ	3	3
	マルスダレガイ	10	15
	オオノガイ	1	1
	ウミタケガイモドキ	1	1
頭足	十腕	1	2
	八腕形	1	1
ゴカイ	ホコサキゴカイ	2	2
	スピオ	3	12
	イトゴカイ	2	6
	オフエリアゴカイ	1	1
	サシバゴカイ	9	34

表 8-9-17 (2) 底生動物の確認状況（分類別確認状況）

綱名	目名	科数	種数
ゴカイ	イソメ	2	5
	フサゴカイ	4	6
	ケヤリムシ	3	14
サメハダホシムシ	サメハダホシムシ	1	2
クモ形	ダニ	-	1
	真正クモ	1	1
ウミグモ	皆脚	1	1
甲殻	フジツボ	2	6
	コノハエビ	1	1
	ワラジムシ	6	8
	ヨコエビ	14	24
	エビ	18	34
	口脚	1	1
昆虫	トビムシ	1	1
	ハエ	4	4
簪虫	簪虫	1	1
腕足	頂殻	1	1
苔虫	櫛口	10	11
ヒトデ	モミジガイ	1	1
	キヒトデ	1	1
	ヒメヒトデ	1	1
クモヒトデ	クモヒトデ	1	1
ウニ	ホンウニ	1	1
ナマコ	イカリナマコ	1	1
	マナマコ	1	1
ホヤ	マメボヤ	3	4
	マボヤ	4	6
24 綱 58 目 150 科 278 種			

注) 科数及び種数は、「平成 18 年度版河川水辺の国勢調査基本調査マニュアル（国土交通省）」に準拠して通計した。

b. 重要種等の状況

ア. 重要な種

重要な動物の選定にあたっては、最新の法律や資料により判断するものとし、既存資料調査と同様、表 8-9-4 に示した選定基準を用いた。現地調査で確認された重要な種は表 8-9-18 に示すとおりである。

表 8-9-18 現地調査により確認された重要な動物

No	項目	分類			選定基準				
		目名	科名	種名	保存法	環境省 R L	福岡 R D B	水産庁	配慮 指針
1	鳥類	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ			NT		
2		コウノトリ	トキ	クロツラヘラサギ		EN	EN	絶滅危 惧種	
3		カモ	カモ	ホオジロガモ			VU		
4		タカ	タカ	ミサゴ		NT			
5				ハイタカ		NT			
6			ハヤブサ	ハヤブサ	国内	VU	VU		
7		チドリ	ミヤコドリ	ミヤコドリ			VU		掲載種
8			シギ	ハマシギ			NT		
9				ホウロクシギ		VU	VU		
10			カモメ	コアジサシ	国際	VU	VU	減少 傾向	
11		スズメ	ウグイス	オオヨシキリ			NT		
12			ヒタキ	コサメビタキ			DD		
13	昆虫類	トンボ	サナエトンボ	タイワンウチワヤンマ					掲載種
14		コウチュウ	ガムシ	コガムシ		DD			
15	魚類	スズキ	ハゼ	チワラスボ		EN			
16	底生 動物	原始腹足	ユキノカサガイ	ツボミガイ		NT			
17		中腹足	ワカウラツボ	カワグチツボ		NT			
18			ミズゴマツボ	エドガワミズゴマツボ		NT			
19			ウミニナ	ウミニナ		NT		減少 傾向	
20		新腹足	アキキガイ	アカニシ				減少種	
21		原始有肺	オカミミガイ	ウスコミミガイ		NT	VU		
22		マルスダレ ガイ	チドリマスオ	クチバガイ		NT			
23			ニッコウガイ	テリザクラガイ		VU			
24				ユウシオガイ		NT			
25			フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ		NT			
26		真正クモ	ウシオグモ	ヤマトウシオグモ		DD			
27		エビ	カクレガニ	メナシピンノ			NT		
28			オサガニ	オサガニ			NT		
29			スナガニ	ハクセンシオマネキ		VU	NT		
30			モクズガニ	モクズガニ				減少 傾向	

注) 選定基準は表 8-9-4 の記号と対応している。

(ア) 鳥類

■ カンムリカイツブリ

〔一般生態〕

本種は、九州以北に冬鳥として渡来し、福岡県の海域では10月中旬頃から飛来するとされる。福岡県内では、博多湾西部の大原海岸で個体数が多く、周防灘、洞海湾でもみられ、生息環境は海岸や海岸近くの淡水湖や大きな河川であるとされる。本種の餌は魚や水生の甲殻類等であり、水中に潜り、餌を捕獲するとされる。日本での繁殖地は青森県、滋賀県琵琶湖であり、北部九州での繁殖の事例はない。

〔出典：「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2011－」福岡県（2011年）
「日本の鳥 550 水辺の鳥」桐原政志解説（2000年）
「原色日本野鳥生態図鑑」中村登流（平成7年）〕

〔現地調査結果〕

現地調査結果では、図8-9-5に示すとおり、秋季及び冬季に確認され、多くの個体が御島海域を採餌、休息場として利用していた。

以上のことから、本種は調査地域を越冬地として利用していると推定され、本海域に生息するコノシロ、シログチ等の魚類を餌としていると考えられる。

なお、本種は、飛翔高度確認時に飛翔高度観察区間を通過した個体はみられていない。

■ クロツラヘラサギ

〔一般生態〕

本種は、九州、沖縄を定期的な越冬地とし、福岡県の博多湾には1980年代から定期的に越冬するようになり、現在では国内最大の越冬地の一つとなっている。生息環境は浅く水につかるヨシ原や入り江の干潟、水田、河川、湖沼の砂泥地であるとされている。本種の餌は魚、昆虫、甲殻類等であり、浅い水辺を歩きながら、採餌するとされる。繁殖地は朝鮮半島、中国東北部に限られ、日本での繁殖の事例はない。

〔出典：「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2011－」福岡県（2011年）
「日本の鳥 550 水辺の鳥」桐原政志解説（2000年）
「原色日本野鳥生態図鑑」中村登流（平成7年）〕

〔現地調査結果〕

現地調査結果では、図8-9-6に示すとおり、冬季に確認され、御島海域の浅瀬を餌場として利用していた。これらの個体の一部は、都市計画対象道路上空（飛翔高度観察区間2）を通過しており、この際の高度は20m以上であった（図8-9-7参照）。

以上のことから、本種は調査地域を越冬地として利用していると推定され、マハゼ、ボラ等の魚類を餌としていると考えられる。

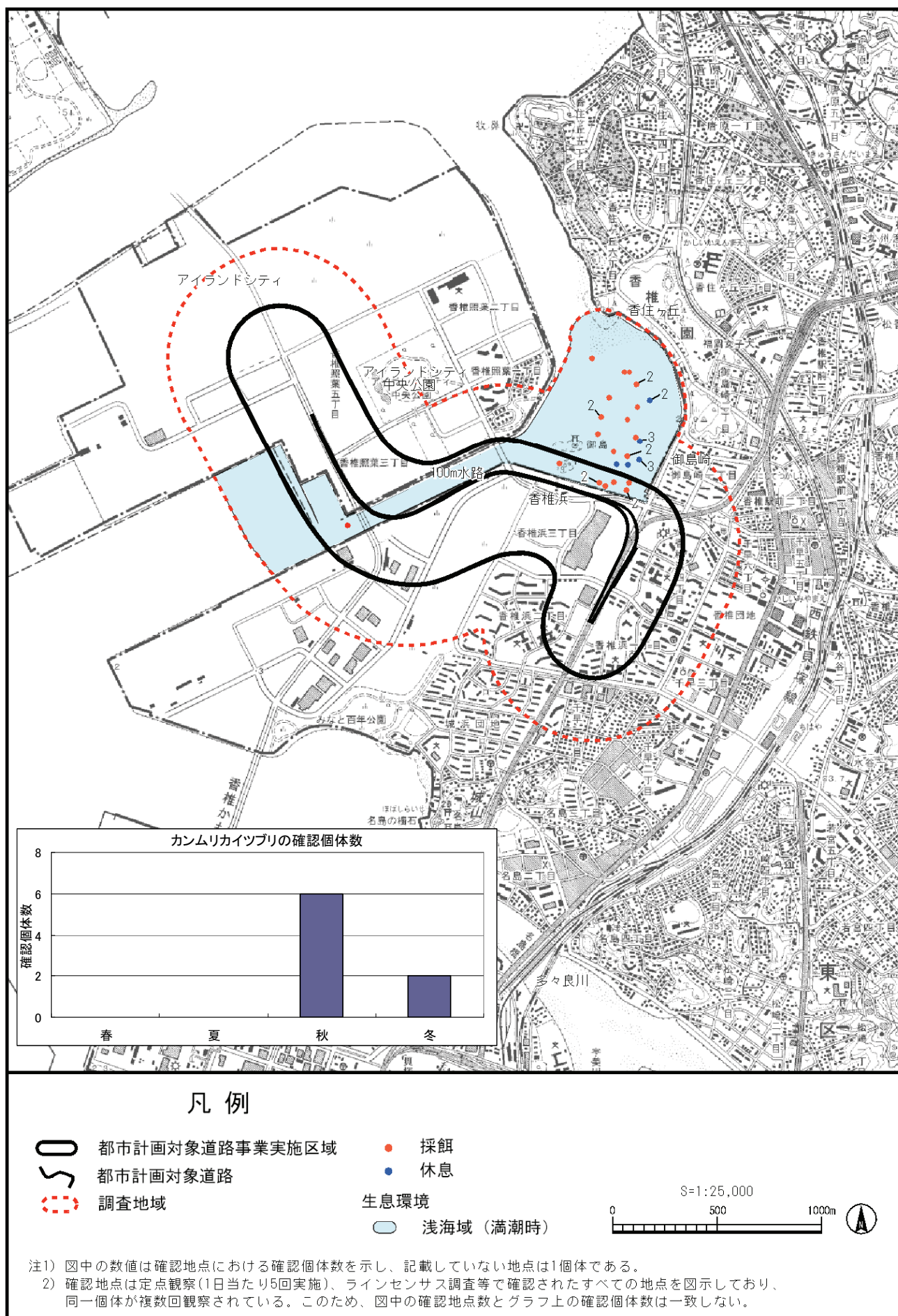


図 8-9-5 現地調査によるカムリカイツブリの確認状況

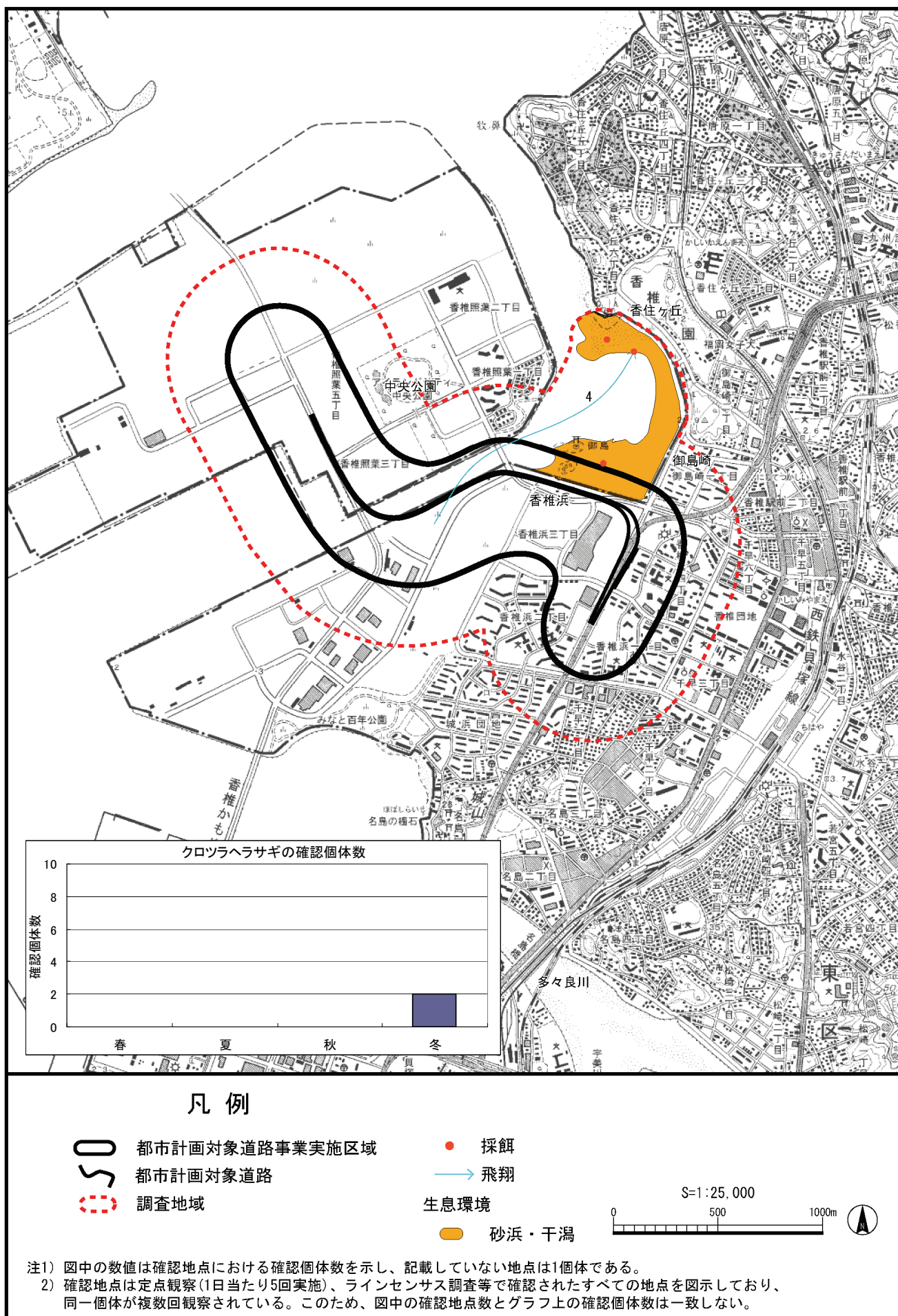


図 8-9-6 現地調査によるクロツラヘラサギの確認状況

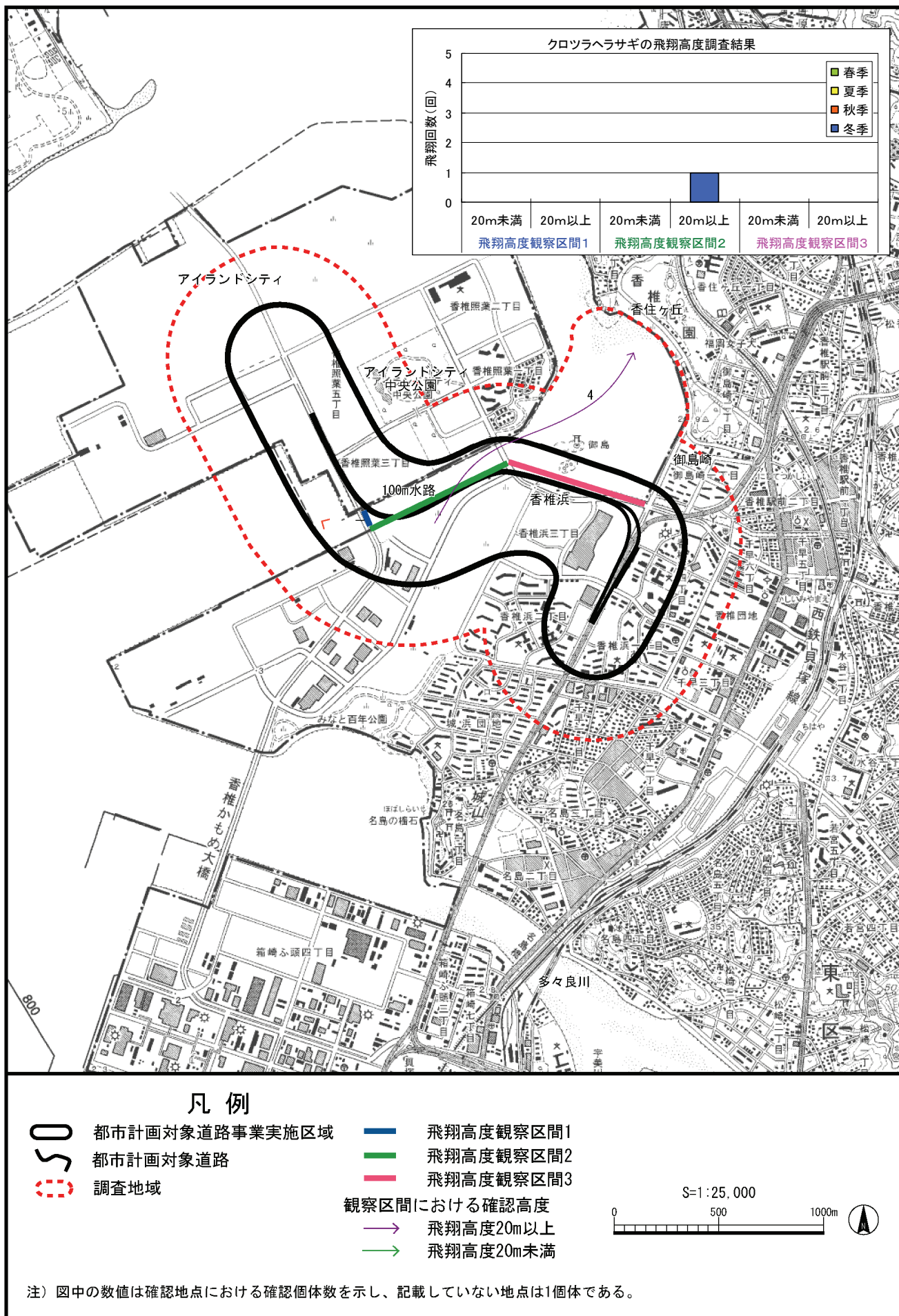


図 8-9-7 現地調査によるクロツラヘラサギの高度別飛翔状況

■ ホオジロガモ

〔一般生態〕

本種は、ユーラシア大陸と北アメリカ大陸の高緯度地方に広く繁殖分布し、冬は両大陸の低緯度地方に渡ってすごす。日本には冬鳥として北海道、本州、四国、九州で見られ、本州北部と北海道に多い。10月から翌年の4月ごろまで比較的ふつうに見られる。

内湾を好み、潜水して甲殻類や貝類を捕食する。北半球の中緯度地域以北で繁殖し、冬は南下する。

〔出典：「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2011－」福岡県（2011年）
「増補改訂版 日本鳥類大図鑑Ⅱ」清棲幸保（1980年）
「原色日本野鳥生態図鑑」中村登流（平成7年）〕

〔現地調査結果〕

現地調査結果では、冬季に定点調査において、図 8-9-8 に示す御島周辺海域で最大 12 個体が確認され、終日同海域で採餌や休息を行っていた。

ホオジロガモは博多湾東部海域に冬鳥として渡来し、御島海域周辺の利用も確認されている。

なお、本種は、飛翔高度確認時に飛翔高度観察区間を通過した個体はみられていない。

■ ミサゴ

〔一般生態〕

本種は、日本全国に留鳥として分布する。福岡県内では周年生息し、冬季には、北日本の個体の一部が越冬するために飛来するため、個体数が増加する。生息環境は海岸などの浅海域である。本種の餌は、メジナ、ボラ、スズキ、アジ、イワシ等の魚類であり、海上で 50～100m ぐらいの高度で旋回飛翔し、獲物を見つけると急降下し、水面近くの魚を捕獲する。捕獲した魚は、岩の上、杭などにとまって食べる。繁殖地は、北海道から沖縄であり、福岡県では北九州市白島で繁殖記録がある。調査地域周辺では繁殖記録はない。

〔出典：「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2011－」福岡県（2011年）
「日本動物大百科 全 11 巻」日高敏隆監修（1996 年）
「日本鳥類大図鑑Ⅱ」清棲幸保（昭和 53 年）
「日本のワシタカ類」森岡照明他（1995 年）〕

〔現地調査結果〕

現地調査結果では、4 季を通して確認され、御島海域を餌場として利用していた。また、100m 水路上空は、図 8-9-9 に示す御島海域へ飛翔して移動する個体が確認されており、このうち、27 回が都市計画対象道路上を飛翔して横断していた。この際の移動高度は、多くが 20m 以上と比較的高い高度であった。20m 以上が、飛翔高度観察区間 1 で 4 回、飛翔高度観察区間 2 で 11 回、飛翔高度観察区間 3 で 8 回の計 23 回確認され、20m 未満が 4 回確認された（表 8-9-11、図 8-9-10 参照）。

以上のことから、本種は調査地域を周年利用し、主に御島海域を生息場としていると推定され、メジナ、ボラ等の魚類を餌としていると考えられる。また、御島海域を利用する個体は、100m 水路上空を移動経路としていると推定される。

■ ハイタカ

〔一般生態〕

本種は日本全国に分布し、福岡県では9月～4月にかけて飛来する冬鳥であり、渡りの時期である春季、秋季にもよくみられる。生息環境は、山地から平地までの広い範囲であり、樹林から農耕地まで様々な環境でみられ、住宅地近傍でもみられることがある。本種の餌は、小型の鳥類であり、樹林や農耕地を餌場とし、高い木の上等にとまり、獲物を見つけると飛び立ち足の爪で捕獲する。繁殖地は北海道と本州とされ、調査地域周辺での繁殖事例はない。

〔出典：「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2011－」福岡県（2011年）
「日本の鳥 550 陸鳥の鳥」五百沢日丸解説（2000年）
「原色日本野鳥生態図鑑」中村登流（平成7年）〕

〔現地調査結果〕

現地調査結果では、渡りの時期である秋季（10月）に市街地の植樹帯でハンティングする個体が確認された（図8-9-11参照）。

以上のことから、本種は調査地域を渡りの経路とし、市街地の植樹帯や造成地の草地を渡り途中の餌場としていると推定され、スズメ、ムクドリ等の小型鳥類を餌としていると考えられる。

なお、本種は、飛翔高度確認時に飛翔高度観察区間を通過した個体はみられていない。

■ ハヤブサ

〔一般生態〕

本種は、北海道から九州までほとんどが留鳥として分布し、福岡県では留鳥もしくは冬鳥として沿岸部で周年みられる。生息環境は、海岸、河口、農耕地等の開けた場所である。本種の餌はハト類、ツグミ類、カモ類、シギ・チドリ類等の小型から中型の鳥類であり、電柱、高い建物等にとまり、獲物を見つけると高所より急降下して捕獲する。繁殖地は、北海道から九州までの海岸や島の断崖の岩棚等に産卵する。福岡県内では、玄海灘の島で繁殖記録があるが、調査地域周辺では繁殖事例はない。

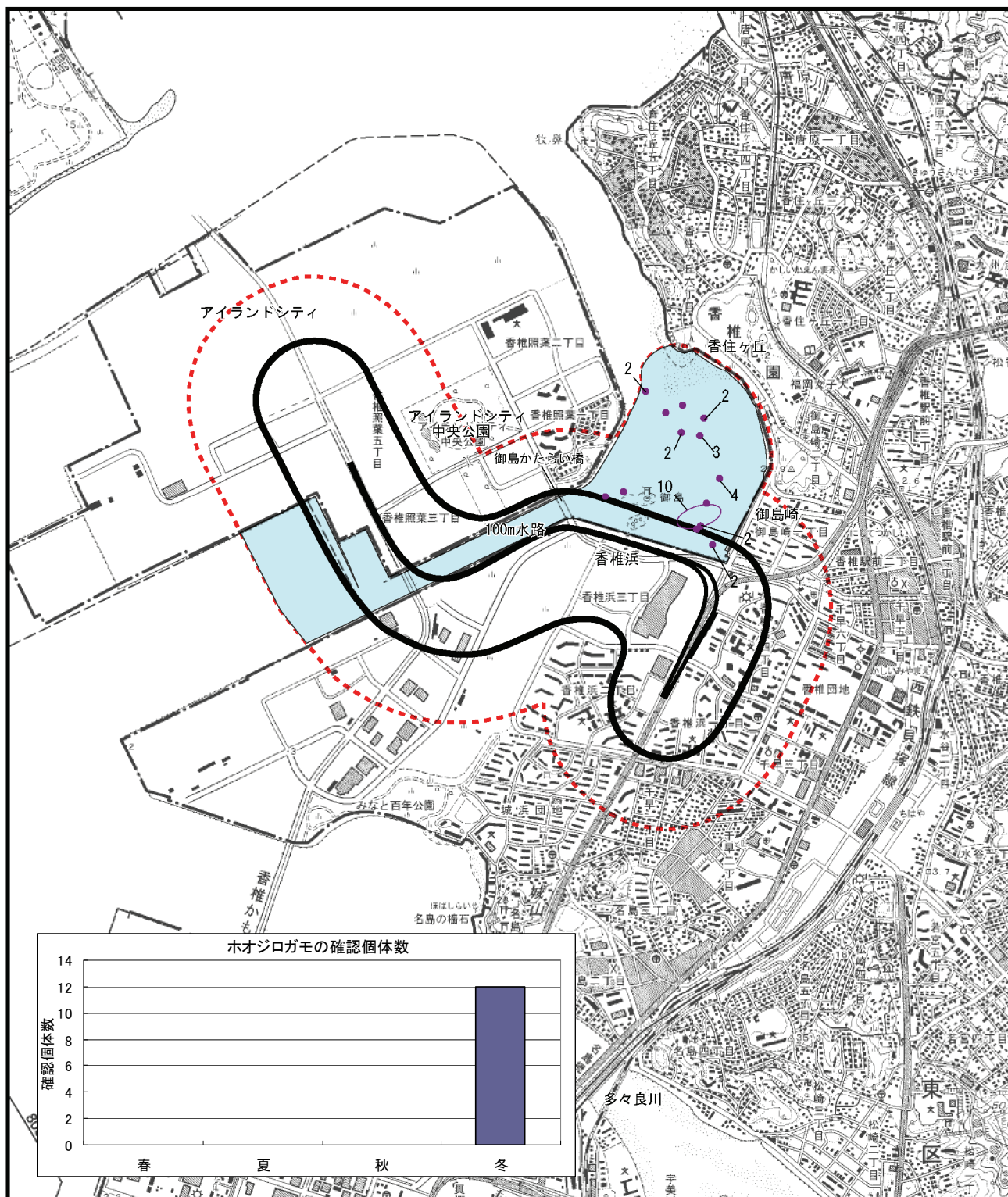
〔出典：「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2011－」福岡県（2011年）
「日本動物大百科 全11巻」日高敏隆監修（1996年）
「原色日本野鳥生態図鑑」中村登流（平成7年）
「日本のワシタカ類」森岡照明他（1995年）〕

〔現地調査結果〕

現地調査の結果では、本種は4季を通して確認され、図8-9-12に示すとおり、いずれも海岸線近い場所を飛翔する個体であった。

都市計画対象道路上空を飛翔して横断する個体は2回確認されており、ともに20m以上と比較的高い高度であった。この際の移動高度は、飛翔高度観察区間2で1回、飛翔高度観察区間3で1回確認された（表8-9-11、図8-9-13参照）。

以上のことから、本種は調査地域を周年利用し、主に市街地や御島海域の海岸線近くを生息場とし、ハト類、ムクドリ、ハクセキレイ、シギ・チドリ類等の鳥類を餌としていると推定される。また、都市計画対象道路周辺を餌場間の移動経路としていると考えられる。



注1) 図中の数値は確認地点における確認個体数を示し、記載していない地点は1個体である。
 2) 確認地点は定点観察(1日当たり5回実施)、ラインセンサス調査等で確認されたすべての地点を図示しており、同一個体が複数回観察されている。このため、図中の確認地点数とグラフ上の確認個体数は一致しない。

図 8-9-8 現地調査によるホオジロガモの確認状況

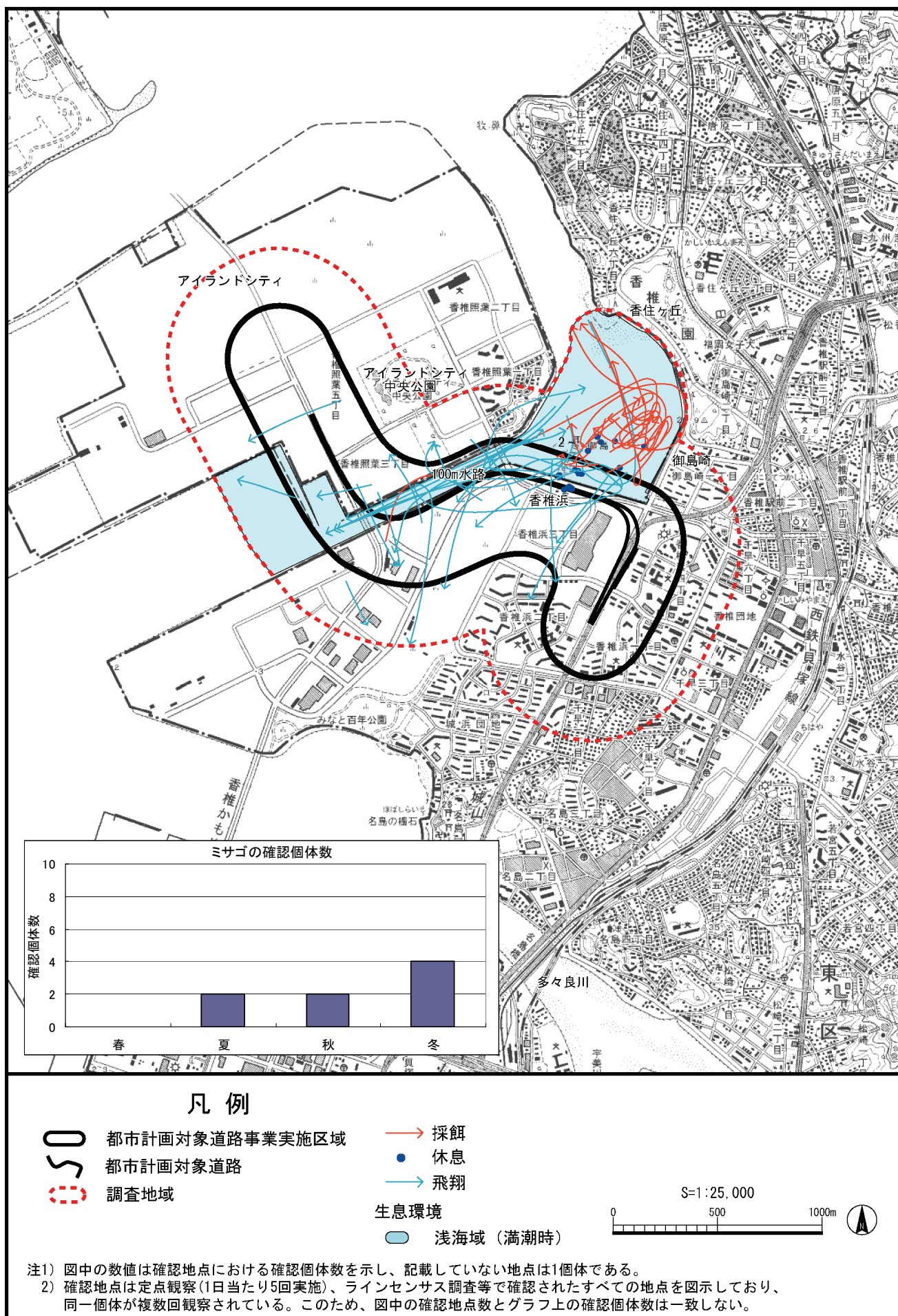


図 8-9-9 現地調査によるミサゴの確認状況